



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

年間第28主日 A年(2023年10月15日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書 25章6—10a節

第二朗読：フィリピの信徒への手紙 4章12—14、19—20節

福音朗読：マタイによる福音書 22章1—14節

終末の祝宴

三つの朗読から

第一朗読と福音朗読では祝宴、婚宴のイメージが展開します。それはハレの日であり、楽しい時、喜びの食卓です。しかし、この日、この時、この食卓は二度とめぐってきません。だから、ふさわしい姿、ふさわしいところで向かわなければならないのでしょうか。

第二朗読の「わたしにはすべてが可能です」(13節)をここにとめましょう。パウロは自慢げに語っているのではないのです。主イエス・キリストとの関わり合いの中で生きれば、どんな状況でも耐えられるという確信から生じることばです。

福音朗読の「招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない」(14節)というイエスさまのことばから善人であれ、悪人であれ、どんな人でも神さまはイエスさまを通して招いてくれることがわかります。問題は招きにふさわしく応えられるかどうかです。

ところで、ミサはすべての人が招かれる宴、祝宴です。それは二度とめぐり来ない、今ここにある宴です。次回というものはありません。終末的な緊張感の中でわたしたちはミサに与っているのでしょうか。

また、日常生活の中でわたしたちは感謝を表明していきます。「ありがとう」、「おかげさまで」といった具合に。それと同じように教会で、典礼の中で感謝を表明しているのでしょうか。忙しいけれど、用事があつたけれどミサに来ることができた。この事実がまず神への感謝を表すきっかけとなります。

福音朗読で気になるのは9節の、「見かけた者はだれでも」です。善人も悪人も(10節)連れてこられます。良い麦と毒麦が一緒にある(マタ13章24—30節)を思い起こさせます。また18章にある迷った羊を取り戻すとえ話も思い出されます。『マタイによる福音書』の著者は、人は誰でもイエスのもとに来られると考えていたのでしょうか。罪人すら招くイエスの姿を描こうとしているようです。

しかし、11節のひと言、「婚礼の服」が腑に落ちません。一見、不条理です。連れてこられたのに、礼服を着ていないだけで、非難されるとは。聖書学者たちは、ふたつのたとえ話が結び合わさったと考えるようです。招かれているが、それにふさわしい応えをしたかどうかが問われていると理解したらどうでしょうか。

ひとこと【終末の祝宴】

聖書には食卓の場面がたくさん登場します。今日の第一朗読も福音も食卓、祝宴の場面です。どんな宗教でも、「食べる」という行為は宗教儀礼として大切なものとなります。同じ食卓に着くということが、交わりの体験でもあるからです。

食事は歓待の礼節を表現し(創18章1-5節、ルカ24章29節)、相手を認める証しであり(マタ9章11節)、来訪(トビ7章9節)と帰宅の喜びのしるし(ルカ15章22-32節)です。そして、食卓で感謝を表し(使16章34節)、喜びにつつまれます(ヨハ2章1-10節)。

また、食卓には終末的な側面があります。終末的とは、「終わりの」、「最後の」という意味です。人間は「終わり」を意識して生きています。それは、個人の終わりとしての「死」であり、同時に世界の終わりとしての「世の終わり」です。二度と同じ日は来ないのでから日々の営みは終末的です。二度と同じ食卓はない、めぐり来ないという意味で親しい人と囲む食卓もまた終末的です。ですから、聖書の言う終末とは、「今、ここに」二度とめぐり来ない出来事があるということです。決して遠い将来の終わりを指しているだけではありません。

神さまは楽しい宴である祝宴を備えてくださいます(箴9章1-2節)。これもまた、終末的な色彩を含んでいます。この世の終わりには、すべての民のために特別な宴席を設けるのです(イザ25章6節)。この宴には、飢えている人も、貧しい人も加わることができます(イザ55章1-2節)。

イエスさまは「義に飢え渴く人は幸いである。その人たちは満たされる」(マタ5章6節)といわれました。この約束は主イエス・キリストが再び来られる時に実現します。その宴には東から西から多くの人が集い、新しいぶどう酒を飲むために(マタ26章29節)宴席につくのです。この祝宴では一人ひとりが主と顔と顔を合わせて向かい合います。「見よ、わたしは戸口に立ってたたいている。もし、誰かがわたしの声を聞いて戸を開くなら、わたしはその人の所に入って、食事をともにし、その人もまたわたしとともに食事をする」(黙3章20節)

おしらせ

10月29日は、「ロザリオ祭」として、ミサの時間は7時と10時半だけです。

アントニオ会館の庭でミサをささげて、軽食を楽しみましょう。